■2019年7月26日付　北海道新聞　掲載

北の最新技術 販路拡大を
札幌で北洋銀商談会

225社・団体が出展した東日本最大級の展示・商談会「ものづくりテクノフェア」

北洋銀行は25日、製造業者の販路拡大を支援する東日本最大級の展示・商談会「ものづくりテクノフェア」を札幌市内で開いた。同行の取引先を中心に225社・団体が出展し、ロボットや省エネシステムなど最新技術を売り込んだ。

今年で13回目。ほぼ前年並みの約4600人が来場した。開会式で北洋銀の安田光春頭取は「北海道は人口減少が進んでおり、生産性向上が喫緊の課題。経済産業の発展が不可欠であり、支援したい」と述べた。

会場には製品の実物や、技術を紹介するパネルが並んだ。空知管内奈井江町の太田精器は、オオカミを模した形の装置「モンスターウルフ」を展示。シカやクマなど野生動物が近づくとセンサーで感知し、音や点滅する光で追い払う。札幌のYSEは強度を高めて冬も含め年中使える大型ビニールハウスを紹介。担当者は「用途は広く、需要は伸びている。さらに販路を広げたい」と話した。

十勝管内大樹町や北海道スペースポート研究会などの共同ブースでは、同町のベンチャー企業が打ち上げに成功した宇宙観測用小型ロケット「MOMO（モモ）」の模型も展示され、注目を集めていた。（堂本晴美）

■2019年7月26日付　日刊工業新聞　掲載

北洋銀、ものづくりフェアに 225社・団体が出展

Tweet　シェア　LINEで送る　(2019/7/26 05:00)

【札幌】北洋銀行は２５日、アクセスサッポロ（札幌市白石区）で新しい製品や技術などの展示会「北洋銀行ものづくりテクノフェア２０１９」を開いた。道内外から２２５社・団体が出展。生産性向上に役立つロボット、ＩｏＴ（モノのインターネット）や航空宇宙・水素貯蔵などの新技術など多様な分野のモノが勢ぞろいした。

太田精器（北海道奈井江町）は音や光、姿で野生動物を撃退するオオカミ型の装置を出展。フレイン・エナジー（札幌市西区）は有機ハイドライド技術を活用した水素の貯蔵・輸送システムを紹介した。東北海道いすゞ自動車（北海道帯広市）はジャガイモの種まき作業の補助装置を展示した。

北洋銀行の安田光春頭取は最近の出展傾向として「生産性向上や省力化の製品・技術が多くなっている」との認識を示した。

■2019年8月2日付　ニッキン　掲載

ものづくりテクノフェアに4600人来場
北洋銀

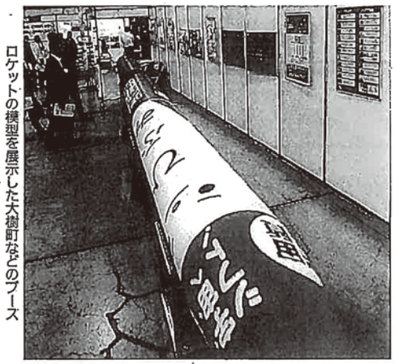
【札幌】北洋銀行は7月25日、優れた技術や製品を持つものづくり企業や団体、大学などが展示、商談する「ものづくりテクノフェア」をアクセスサッポロで開催。225社・団体が出展し、約4600人が来場した。2007年から毎年開催し、13回目の今回は、生産性向上や人手不足の課題を解決する「IoT・スマートものづくり応援ツール」専用展示ゾーンを設けた。また、国内初の民間単独での打ち上げに成功した「宇宙ロケット」の模型も展示され、来場者の関心を集めた。

太田精器からオオカミ型野生動物撃退装置の説明を聞く安田頭取（左、7月25日、アクセスサッポロ）

北海道、空知、苫小牧、旭川、帯広各信用金庫も取引先企業の出展で協力した。

開会式で安田光春頭取は「東日本最大級の商談会となった。昨年は約4800人が来場し、商談も1250件行われた。企業の皆さまのニーズに着実に応えてきたものと自負している」と述べた。

■2019年8月9日付
十勝毎日新聞　掲載


ロケットの模型を展示した大樹町などのブース

宇宙ブースにMOMO
北洋銀商談会テクノフェア
帯広信金協力、大樹も紹介

北洋銀行主催の展示商談会「ものづくりテクノフェア2019」が7月25日、札幌市内のアクセスサッポロで開かれた。大樹町と北海道宇宙科学技術創成センター（HASTIC）、北海道スペースポート研究会が、宇宙関連のブースを出展した。

今回で13回目。会場では、生産性向上につながるロボットやIoT（モノのインターネット）、航空宇宙、水素貯蔵などの新技術が幅広く紹介された。

十勝の5企業を含む225企業・団体が出展し、約4600人が来場した。

宇宙関連のブースは、帯広信用金庫が特別協力した。インターステラテクノロジズ（大樹）が製造して打ち上げた小型観測用ロケット「MOMO3号機」の実物大模型や、大樹町の長年にわたる航空宇宙産業の取り組みについてパネルなどで紹介した。

帯広信用金庫の秋元和夫常務執行役員・地域経済振興部長は「十勝の宇宙の取り組みに関心を持ってもらい、応援団や協力者になってもらえれば」と話していた。（津田恭平）

■2019年7月26日付　北海道建設新聞　掲載

北洋銀がものづくりテクノフェア
人手不足解消に関心
未来担う先端技術紹介

安藤経産局長や土屋俊亮副知事らが企業担当者から説明を受けた

北洋銀行は25日、「ものづくりテクノフェア2019」を札幌市内のアクセスサッポロで開いた。北海道のものづくり産業の振興を目的に、道内外から225企業・団体が出展。人手不足の解消や生産性の向上に関心が集まる中、今回は「IoT・スマートものづくり応援ツール」の専用展示ゾーンを設けた。民間単独の打ち上げに成功した宇宙ロケットや、有機ハイドライド技術を用いた水素貯蔵システムなど未来を担う先端技術をアピールした。

ことしで13回目。優れた技術や製品を有する中小企業や大学、支援機関などが参加。地元就職を促す地方創生の取り組みとして、近郊の工業系学生を招待した。

開会式には秋元克広市長と北海道経済産業局の安藤俊彦局長らが出席。あいさつで安田光春頭取は「昨年は来場者が4800人、商談が1250件行われたなど、企業のニーズに着実に応えてきたと自負している」と述べ、「今後の持続的な発展のためには、経済波及効果が大きく、雇用吸収も高いものづくり産業の発展が不可欠。販路拡大や、ビジネス交流の場として有効に活用して」と話した。

ロケットや水素貯蔵システム

環境・エネルギーや金属・機械・自動車の部会、新産業支援や産学官金連携などの分野で構成。産業交流は東京都大田区と静岡県、名古屋商工会議所が出展した。

環境・エネルギー分野では、エムシーワールド（本社・東庭）が、木材に塗布することで寸法の安定性や強度を高める「液体ガラス」を提案した。北海道オリンピック・パラリンピック・札幌）は、ひび割れ計測システムと赤外線サーモグラフィーを合わせた外壁診断を提案した。

IT・ソフトウエア分野で、ハイテックシステム（本社・東庭）は冷却や排水などの自動制御システム「LYNKS（リンクス）」をアピールしたほか、ティ（同・札幌）は、個人を正確に識別できる生体認証などを展示した。

地域交流分野では、アイバーケート（本社・札幌）が貧困者向けのインターネット通信サービスなどを紹介。キムラ（同）は非常用発電設備の点検サービスを提案した。

このほか、さっぽろ産業振興財団と札幌市、道経産局、ノースステック財団が主催する「生産性向上・IoT・ロボット導入促進セミナー」を開催。中小企業が使いやすいIoTツールの紹介や、各種支援策を説明した。

■2019年8月5日付　日刊工業新聞　掲載

モノづくり展 学生招く
北海道機械工業会 道内企業就職へ種まき

【札幌】北海道機械工業会は札幌市内で開かれたモノづくりの展示会に、北海道内の大学生や高専生、高校生を招いて見学会を行った。道内企業を知ってもらい、地元での就職を促すのが目的で、北海道の委託を受けて実施した。計75人の学生・生徒が参加し、担当者から説明を受けたり、展示ブースを見て回った。

参加したのは北海道情報大学、旭川工業高等専門学校、北海道科学大学高校、北海道札幌琴似工業高校の学生・生徒。北洋銀行主催の展示会「北洋銀行ものづくりテクノフェア2019」を見学した。最初に三五北海道（苫小牧市）など4社の説明を受けた後、会場内の展示ブースを見て回った。北海道科学大学高校工学科の生徒は「こんなにも会社がある」「自分が会社で何ができるかわかった」など、地元企業への関心を高めていた。

展示会の見学会で企業担当者の説明を聞く生徒たち（北海道科学大学高校）